

日本のフルマラソン大会の特徴と傾向に関する研究

A Study of Characteristics and Tendency of Full Marathon in Japan.

1K06B034

指導教員 主査 間野義之先生

上田あかり

副査 木村和彦先生

1. 研究背景

ここ数年ジョギング・ランニングの人気の高まり、全国各地のマラソン大会やロードレース大会の参加者数は増加傾向にあり、定員を超えてしまい出場制限をかける大会もでてきた。新設される大会も増えてきておりマラソン熱は高まる一方である。

2. 研究目的

本研究では出場者数、開催地と人口、制限時間、参加資格、主催団体、併設種目、開催回数の7項目を基準に用いて近年のマラソン大会の分析を行い、市民マラソンと競技志向マラソンの特徴や傾向について明らかにすることを目的とする。

3. 研究方法

本研究では2008年に全国で行われたマラソン大会のうち、フルマラソン競技が含まれている109大会を対象とする。ここで扱うフルマラソン競技とは42.195kmのコースを走り、記録を計測するものと定義する。ただし月例のフルマラソン大会は含まない。株式会社アールビーズが運営しているマラソン大会の情報サイト「RUNNET」や各マラソン大会のホームページ、また電話調査を行ってデータを集めた。収集したデータを出場者数、開催地と人口、併設種目、制限時間、参加資格、主催者、開催回数の7項目ごとにまとめて単純集計を行う。

4. 結果

2008年にフルマラソンを含むマラソン大会は109大会であった。①出場者数：109大会のうち出場者数が9,001人以上の大会は13大会だが、総出場者数の54%を13大会で占めており、全体的に参加者の大規模なマラソン大会への偏りが考えられる。また併設種目があるが、併設種目があるほうが出場者数は多い傾向にあると考えられる。②開催地と人口：人口が100万人以上の都市をもつ都道府県と千葉県や茨城県のように大都市近郊の地域で多く開催されていることが分かった。③併設種目：併設種目を設けていない大会よりも併設種目を設けている大会のほうが集客率が高い。④制限時間：制限時間の平均は5時間45分であった。多くの大会では制限時間6時間は妥当である。⑤参加資格：制限時間により出場出来るものと出来ないものに分けられることが分かった。⑥主催者：大きく分けて、民間・公共組織、日本陸上競技連盟、行政の3つにより運営されていることが分かった。⑦開催回数：開催回数が1~5回の大会が最も多いことからここ数年のジョギング・ランニングブームが到来していることが考えられる。

5. 考察・結論

近年のマラソン大会は市民マラソンと競技志向マラソン、市民マラソンと競技志向マラソンの融合型マラソンの3つに分類できると考えられる。今回分析を行った109大会のマラソン大会のうち6大会が競技志向マラソンで、100大会が市民マラソン、3大会が市民マラソンと競技志向マラソンの融合型の大会であるといえる。

今後もマラソン参加者は増え、走力の観点からマラソンに求めるレベルの乖離は大きくなっていくことが考えられる。また、マラソンに求めるニーズも様々である。今後も増えていくであろう多くのランナーのニーズを満たす大会を設定していくことが必要なのではないだろうか。